

問題 自分の感動や思い出が相手に伝わる短歌に磨きあげるためには？

この単元と関連した領域の付いている力(◆)

◆書くこと(ウ)

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。(小学校第5学年及び第6学年)

根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。(中学校第1学年)

本単元の目標

学びに向かう力、人間性等

言葉で伝え合う力を進んで高めるとともに、言葉に対する認識を深め、言語活動を通して力を磨き、読書を通して自己を向上させようとする。

単元終了時のめざす生徒の姿

・修学旅行の思い出が相手にありありと伝わるように、表現の効果を考えて描写することができる。  
・自分の感じたことや伝えたいことが、より相手に伝わるように用いる語句を検討することができる。

知識及び技能

(1)エ抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

思考力・判断力・表現力等

書くこと(イ) 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。  
書くこと(ウ) 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

この単元からつながっている領域の力(◆)

◆高等学校 書くこと(文学国語)

・読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。(イ)  
・文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。(ウ)

他教科との関連

【総合的な学習】修学旅行

言語活動

「修学旅行の思い出についての短歌を書く」

基本の学習過程

第1次 書くこと

【題材の設定・情報の収集・内容の検討】

- (1) 短歌とは何かを知り、短歌に親しむ。  
単元ゴールのイメージと学習の見通しをもつ。  
・短歌の定義、歴史、定型などについて教える。  
・短歌の定型を用いて言葉遊びを行う。  
・「修学旅行歌集をつくる」という単元ゴールを提示する。

【構成の検討】【考えの形成・記述】

- (2) 修学旅行を振り返り、伝えたいことを作文する。  
・修学旅行の思い出の中でも特に短歌にしたいことについて200字程度で作文させる。  
・定型だけを意識させて、短歌を創らせる。

- (3) 仲間と創作した短歌を読み合い、伝えたいことについて意見を交流する。  
単元を貫く問題を確認し、学習の見通しをもつ。(本時)  
・生徒同士で短歌について交流させ、200字作文の内容と短歌が対応しているかどうかを吟味させる。  
・「思い通りに短歌が創れない」困り感を問題として設定する。

【振り返り】USJのアトラクションに乗った後の気持ち悪さを表現しようとしたけど、自分の感じた気持ち悪さよりも大きさに相手に伝わってしまっていた。ちょうどよい気持ちを表すのは難しいと感じた。

見方・考え方を働かせる

「伝えたいこと」と「短歌」

31音で自分の感じたことを表現する難しさ・困り感を感じる。

評価規準

【主】相手と目的を意識しながら、進んで情報を整理し、意欲的に短歌を創作しようとしている。  
【思】「書くこと」において、思い出を短歌に表すために、修学旅行を振り返りながら情報を整理し、伝えたいことを明確にしている。(ア)〈ノート〉〈作文〉

第2次 読むこと

【精査・解釈】

- (4) 教科書の短歌を読み、短歌の構成や表現の効果について考える。  
・「伝えたいこと」「言葉選び」「構成」「表現の工夫と効果」の4つの視点でプロの短歌を分析させる。  
・自身の創作に取り入れられることをまとめさせる。

第2次 書くこと

【構成の検討】【考えの形成・記述】

- (5) 教科書の短歌の「表現の工夫と効果」について知り、自身の創作に役立てる。  
・前時に生徒が読み取ったことを確認しながら、教科書の短歌の鑑賞文を用いて、短歌の表現の工夫と効果を押さえる。  
・学んだことを意識させて、創作を進めさせる。

【振り返り】正岡子規の短歌の数詞を用いる工夫を活用しようと思う。「一人」という数詞を使うことで、周りには自分の感じている気持ち悪さが伝わっていない状況を表現できる気がした。

【振り返り】俄万智の短歌の口語を活用すれば、もしかしたらホテルでの友達との会話の雰囲気が伝えられるかもしれないと思った。言葉選びにも気を付けながら次も創作をしようと思う。

【推敲】

- (6) 推敲例を参考にしながら、創作した短歌を推敲する。  
・生徒作品を例として取り上げて、全体で推敲する。  
・「言葉選び」「構成(語句の順序)」を意識させる。

【共有】

- (7) 友達と短歌を読み合い、効果的な表現について意見を交流する。  
・200字作文と短歌を合わせて交流させ、「効果的な表現」について意見をまとめさせる。

【単元の振り返り】アトラクションに乗った後の気持ち悪さを一人だけ感じていることを相手に伝えることができた。また「追いかけて」という言葉を使うことで、いつまでの続く気持ち悪さを表現することもできたと思う。表現を工夫すれば、自分の味わった気持ちを細かく伝えることができると分かったので、さらに創作を続けていきたい。

「伝えたいこと」と「言葉選び」「構成」「表現の工夫」

伝えたいことを表すためにはどんな言葉、構成、表現の工夫が効果的かを考える。(プロの短歌)(自身の短歌)

【主】相手と目的を意識しながら、短歌の構成や表現を工夫し、  
【思】「書くこと」において、伝えたいことが分かりやすく伝わるように、短歌の構成を工夫している。(イ)〈ワークシート〉  
【思】「書くこと」において、表現の効果を考えて描写し、自分の考えが伝わるように短歌の表現を工夫している。(ウ)〈ワークシート〉

「読み手」と「短歌の表現」

読み手の立場に立って表現を見直す。

【思】「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(エ)  
【主】相手と目的を意識しながら、進んで批評文の内容を推敲し、書き進めている。

生徒の実態と指導観

今年度の全国学力・学習状況調査本校採点の結果、平均正答率53.8%、前年と比べて-7.2ポイントとなった。領域別では「1年C読むこと(エ)文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える」力を問う問題では21.8%、無解答率が21.8%という結果であり、課題が見られる。ここまで全学年の指導において、表現の工夫と効果を合わせて指導するように心掛けてきたが、表現の効果についてどのように解答したらよいか分からない生徒が多いことが見えてきた。表現の効果について具体的に書いたり、説明したりすることに課題があると考え、本単元の学習活動にそのような場面を設定することとした。

本単元では、3年「書くこと」の(ウ)に重点を置いて学習に取り組ませたい。修学旅行の思い出を短歌にし、その短歌をまとめた歌集をつくることを生徒のゴールとして設定する。伝えたいことを200字程度の作文で表現させ、その作文と短歌のつながりをもとに表現を工夫させていく。相手に表現の工夫と効果を説明させる機会を多く設定し、本単元で付けた力に迫っていく。

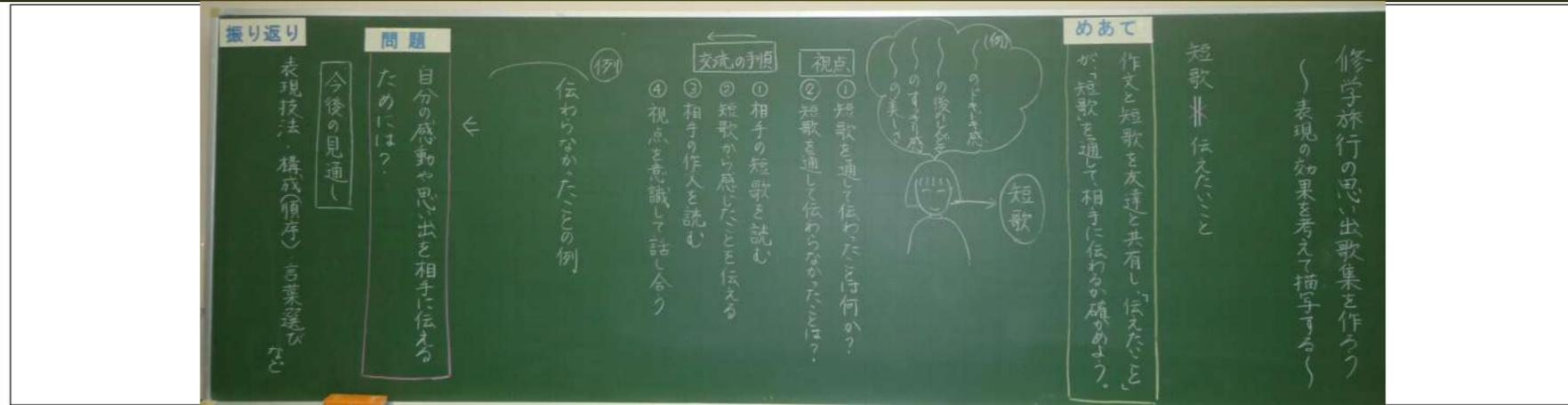
単元末に目指す生徒の言語活動例

①「夜10時静かな声で恋バナし初めて明かす自分の秘密」  
→「10時」という具体的な数詞を用いることで、状況のリアリティーを相手に伝える効果を狙っている。また、下の句を「自分の秘密」という体言で終えることで、読み手に秘密の恋バナの内容を想像させ、読み手も同じ空間にいるような気持ちになってもらいたいと思っている。

②「目がまわるアトラクションの帰り道一人吐き気に追いかけて」  
→上の句で読み手が書き手の状況を理解できるように、「目がまわるアトラクション」や「帰り道」の言葉を入れた。下の句では、アトラクションに乗った後の気持ち悪さを表現するために、「吐き気」の言葉を選んだ。「追いかけて」はアトラクションの激しさも表現しながら、「この吐き気はいつ収まるのだろう」という気持ちを閉じ込めている。

【本時の目標】 短歌を通して「伝えたいこと」と実際の「短歌」の出来栄へのギャップから、生徒に「どうすれば伝えたいことを相手に伝えることができるのか」という疑問を抱かせ、単元後半の問題を設定する。

【本時における言葉による見方・考え方】 作文と短歌を見比べて、「伝えたいこと」と「短歌」にズレがないか考える。



◎教科の見方・考え方を働かせて課題解決させる手立て  
 (「問題」・「めあて」の工夫、まとめ、発問、活動など)

- 相手に「伝えたいこと」を作文にして、短歌創作の軸として意識させる。
- 一度短歌を創作させておいて、「伝えたいこと」と「短歌」のギャップから問題を設定する。
- これまでに身に付けてきた力を振り返らせて、問題解決の手がかりとさせる。

導入 前時の振り返り、本時のめあての設定 (8分)

展開 創作した短歌と作文の内容をもとに交流する。→困り感から問題を設定する。(34分)

今後の見通し・振り返り (8分)

**T:** 前時は200字作文をもとに、「伝えたいこと」を意識しながら、短歌を創作しましたね。良い短歌はできましたか？  
**S1:** 良い短歌ができたと思います。  
**S2:** んー。良い短歌かどうか分かりません。  
**T:** では、この短歌の出来はどうだと思いますか？  
 中3の生徒の作品を提示する。

短歌【行きのバス楽しみすぎてねむれない帰りのバスはぐっすり眠る】

**S2:** 良い短歌だと思います。  
**T:** これがこの短歌を通して伝えたいことだそうですね。作文を提示する。

作文【修学旅行の行きはUSJとか京都とか楽しみが多すぎて友達とずっとしゃべっていたから眠れなかったけど、帰りは疲れきって友達に起こされても全然起きられなかったという思い出を書きたかった。特に帰りのバスの眠たさは今までに経験したことがないくらい眠たくて、よだれを垂らして眠ってしまっていた。その姿を見られたのは恥ずかしかったけど、今では良い思い出になった。】

**S3:** 作文に書かれてあることは短歌からは伝わってきません。  
**S4:** もっと「眠たい気持ち」が伝わるような短歌にしないとイケないと思います。  
**T:** そうですね。このように、「伝えたいこと」が「短歌」を通して相手に伝わらない場合があります。自分の創った短歌はどうでしょうか？今日の授業の「めあて」設定しましょう。

【めあて】  
 作文と短歌を友達と共有し、「伝えたいこと」が「短歌」を通して相手に伝わるかどうか確かめよう！

《全体指導》

**T:** それでは、自分の短歌を読んでもらった時に、相手にどんな反応や感想を望むのか考えてみましょう。  
**S1:** ジェットコースターに乗った時の内臓がぐわんぐわんなる感じが伝わってほしいです。  
**S2:** 私はホテルの部屋で恋バナをした時のコソコソ話をする雰囲気を読み手にも味わってほしいです。  
**T:** その反応を頭において、友達と短歌と作文を共有してみましょう。話し合いの視点と方法を全員で確認しましょう。

【視点】  
 ①短歌を通して「伝わったこと」は何か？  
 ②短歌を通して「伝わっていないこと」は何か？

【交流の手順】  
 ①相手の短歌を読む。②短歌から読み取ったことを伝える。  
 ③相手の作文を読む。④視点を意識して話し合う。

《グループでの話し合い①の例》

**S2:** S1さんの短歌からは恋バナをする楽しさやワイワイ話している感じが伝わってきましたが、実際はコソコソ話していたみたいなので、内緒話をしている雰囲気が伝わっていませんね。  
**S1:** 確かに短歌の言葉からは小さな声で話していることは分からないなあと思いました。  
**S3:** 恋バナをする楽しさは伝わってくるから、静かな雰囲気というか声を小さくして話していることが伝わればいいのではないですか？  
**S1:** 言葉を変えて短歌を作り直してみます。

【困っている生徒への手立て】  
 ・視点を一緒に確認しながら話し合いを支援する。

《全体指導》

**T:** 話し合いをしてみて考えたことを共有してみましょう。  
**S1:** ホテルの部屋で内緒の恋バナをする楽しさを伝えたかったのですが、小さな声で内緒話をする雰囲気が相手には伝わりませんでした。  
**T:** 他にはどうですか？  
**S4:** ジェットコースターに乗った後の気持ち悪さを表現したのですが、相手に大きめに気持ち悪さが伝わってしまいました。どうすればちょうどいい気持ち悪さが伝わるか分かりません。  
**T:** みんなうまく伝わらなかった部分があるようですね。これでは短歌を通して保護者や後輩にみんなの感じた感動や思い出は伝わりませんね。どうすればいいでしょうか？

【問題】  
 自分の感動や思い出が相手に伝わるように、さらに短歌を磨き上げるためには？  
**T:** 現時点で考えられる解決策について、もう一度話し合ってみましょうか。どのような手立てが考えられますか？

《グループでの話し合い②の例》

**S2:** S1さんの短歌はどんな話し方をしていたかについて表現できていなかったから、コソコソ感が伝わらなかったのかもしれないですね。  
**S3:** 「少し」とか程度を表す言葉を入れてみればいいのではないですか？  
**S1:** でも「少し」とか入れると、なんかかっこ悪くないですか？  
**S5:** S4さんの短歌には比喩とか使えないですかね？なんか表現技法とか役に立ちそうな気がします。  
**S4:** どんな風に気持ち悪かったのか表現できればなんとかなりそうな気がします。  
**S6:** 他にも使えるような表現技法はないのでしょうか？

《全体指導》

**T:** それでは話し合った結果を共有してみましょう。現時点でどんな解決策がありそうですか？  
**S1:** 使う言葉や情報を選び直す必要がありそうです。  
**S2:** でも「少し」とか簡単に選んでしまうと、伝えたいことから離れてしまうこともありそうです。  
**S4:** 比喩などの表現技法が役に立ちそうです。詩の授業で学んだ表現技法も使えるかもしれません。  
**S5:** プロの短歌などを読んでみるとヒントがあるかもしれません。  
**T:** これまでに学んできたことが使えそうですね。詩歌の授業などを振り返りながら、短歌を磨いていきましょう。それでは今日の振り返りを書いてください。

<指導上の留意点>  
 生徒の言葉をつないで「めあて」をつくる。

<指導上の留意点>  
 話し合いの視点と交流の手順を示し、目的をもたせて話し合いをさせる。

<指導上の留意点>  
 十分に生徒の困り感を引き出した上で、問題を設定する。

<指導上の留意点>  
 これまでの学びを振り返りながら、身に付けてきた力を活用する見通しをもたせる。

規評 標準 【主体的に学習に取り組む態度】 作文と短歌を読み比べて、短歌の表現について言葉に対する認識を深めようとしている。

